

統合版

糖尿病を正しく知り正しく恐れよう

国際医療福祉大学成田病院 糖尿病・代謝・内分泌内科部長 竹本 稔

糖尿病とインスリン

糖尿病は慢性的に血液中のブドウ糖濃度(血糖)が高くなり、様々な合併症をおこる病気です。ブドウ糖は体の大切なエネルギーで、特に脳の主なエネルギー源です。このブドウ糖を血液中で一定濃度に保つ

重要なホルモンの一つが、膵臓が分泌するインスリンです。多くのホルモンは血糖値を上げますが、下げるのはインスリンだけです。インスリンの発見は今からちょうど100年前の1921年。カナダのファイルデ

リック・バンティングとチャールズ・ベストによってインスリンの血糖低下作用が報告され、翌年には患者さんへの投与が始まりました。糖尿病は紀元前1500年のパピルスの文書にも記述が見られますが、バンティングらの発見により

糖尿病への理解や治療がこの100年間で飛躍的に向上しました。その功績を称え、バンティングの誕生日11月14日は「世界糖尿病デー」とされ予防と啓発のため世界中で建物がブルーにライトアップされます。当院でもライトアップを行いました。

世界的な大流行を表す「パンデミック」という言葉があります。昨年3月にWHOの定義し、高血糖を引き起

増え続けている患者数 合併症や脳・心疾患も

糖尿病は慢性の高血糖状態が続く病気です。血糖値を上げますが、下げるのはインスリンだけです。インスリンの発見は今からちょうど100年前の1921年。カナダのファイルデ

リック・バンティングとチャールズ・ベストによってインスリンの血糖低下作用が報告され、翌年には患者さんへの投与が始まりました。糖尿病は紀元前1500年のパピルスの文書にも記述が見られますが、バンティングらの発見により

糖尿病への理解や治療がこの100年間で飛躍的に向上しました。その功績を称え、バンティングの誕生日11月14日は「世界糖尿病デー」とされ予防と啓発のため世界中で建物がブルーにライトアップされます。当院でもライトアップを行いました。

世界的な大流行を表す「パンデミック」という言葉があります。昨年3月にWHOの定義し、高血糖を引き起

製剤が病態に合わせて選択されます。現在9種類の経口剤を使用でき、週に1回の注射薬もあり、多種多様になってきました。



竹本 稔(たけもと みのる) 主任教授
国際医療福祉大学医学部 糖尿病・代謝・内分泌内科

す「パンデミック」という言葉があります。昨年3月にWHOのテ

発症し、高血糖を引き起

糖尿病の治療は▽規則正しい生活▽健康的な食生活▽定期的な運動を基本として、経口血糖降下剤や注射

■国際医療福祉大学成田病院
成田市畑ケ田852-800
476-355・5600(代)